

令和8年度浜松学院大学入学者選抜試験 A日程【英語】出題趣旨

本学のアドミッション・ポリシーとして「コミュニケーション能力の向上に意欲を持ち、創造性豊かで行動力のある者」を受け入れ、入学後には「多様なコミュニケーション能力」を高めることをカリキュラム・ポリシーとして学生に促している。

それゆえ、英語の入学者選抜試験においては、そうしたポリシーに基づいて、問題文には日常的な英語表現を用いている。入学前の学習で、それぞれの状況に応じた語形変化も含めて必要十分な語彙を習得できているか、さらには、構文、慣用表現といった英語話者の発想を適切に理解し、そこから話者の心情を読み取ることができるかを問う出題をしている。

問題Ⅰ

人称、時制、品詞、慣用表現等に関連した適切な単語を適切な語形で用いることが習得できているかを問う。

問題Ⅱ

文脈に応じた語形変化や、用いるべき品詞、慣用表現の理解を含めて、適切な単語の使用を習得できているかを問う。

問題Ⅲ

基本的な語彙、文法の知識を基に、日常表現が理解できるかを問う。

問題Ⅳ

会話の自然な流れを理解し、話者の心情が読み取れるかを問う。

問題Ⅴ

【文章題】

近年の学習指導要領を反映した、典型的な「情報活用・思考力重視型」の問題。単なる英文理解にとどまらず、AIと英語学習という現代的なテーマを扱い、内容理解や文章全体の主旨を問う構成。

【問題の特徴】

本文の内容と設問の英文が一致しているかどうかを判断する正誤問題。設問では、本文と設問の英文が同じ意味であるかを判断する力が求められる。その際、英語の言い換え

(Paraphrasing)を理解する知識・スキルが重要となる。実際の英語では、同じ内容が同一の表現で繰り返されることは少なく、異なる語彙や表現で言い換えられることが一般的。そのため、英文を一語ずつ日本語に訳す力だけでなく、表現が異なっても同じ意味であることを理解し、本文と設問に関連付けて判断する力が求められる。したがって、本問題は、語彙・文法・読解力を統合的に活用し、言い換えを通して意味を理解・判断する英語運用能力(Paraphrasing competence)を評価する問題である。

【文章構成】

主張、理由、具体例、結論の流れが明確で、読みやすい構成になっている。

問題Ⅵ

【出題文】

近年の学習指導要領を反映した、「対話を通したコミュニケーション重視型」の問題です。AIを活用した英語学習をテーマに、大学教員と学生の自然なやり取りを通して、実際のコミュニケーション場面で用いられる英語表現を理解する力を問う構成になっている。

【問題の特徴】

対話文の流れを理解した上で、下線部を適切な日本語に訳す問題。単語や文法を個別に訳すだけではなく、会話の流れや話し手の意図を踏まえて、自然な日本語で表現する力が求められる。対話文の流れを理解した上で、下線部を適切な日本語に訳す問題。単語や文法を個別に訳すだけ

ではなく、会話の流れや話し手の意図を踏まえて、自然な日本語で表現する力が求められる。また、it などの指示語が何を指しているのかを文脈から正確に把握し、語句を直訳するのではなく、適切な日本語に置き換えることが重要。したがって、本問題は、語彙・文法・文脈理解を統合的に活用し、コミュニケーションの流れの中で英文を自然な日本語へ置き換える英語運用能力を評価する問題である。

【文章構成】

教師と生徒の Question-Answer（質問→応答）を基本とした対話で構成されている。質問、説明、具体例、まとめという流れが明確であり、対話の展開を追いやすい構成になっている。